

デジタル技術を活かした漆塗り加飾技法

(有)山内うるし工芸（鯖江市）

令和4年度 地域資源活用共同研究事業

問合せ先 山本一恵、呉藤勝彦



加飾技法のバリエーション

背景と経緯

県内の伝統工芸業界においても、新たな商品開発や技術継承等の課題解決の手段として、デジタル技術への関心が高まっています。(有)山内うるし工芸は、福井県工業技術センターとの共同研究を行い、これまで熟練の経験と時間を要していた漆工芸の生産工程にデジタル技術を導入することで、「量産性」と「デザイン性」を高めた多様な漆塗り加飾技法の開発に取り組みました。新しい加飾工程では、UV（紫外線）硬化樹脂の積層条件や仕上げの方法、レーザーの彫刻・カット加工が漆の塗装面に与える熱損傷の程度等を試験評価し、漆の美しさを損なわない最適な加工条件やデータ製作方法を開発しました。

成果と製品化の状況

これにより、従来工程と比較して平均 1/2 に工程短縮が可能となった他、従来の生産方法では困難であった微細な意匠性の表現が可能となり、新たな加飾表現のバリエーション展開ができました。

研究成果を活用し、BtoBの受注生産や新たな製品作りを行うため、「KODAI URUSHI」という技術ブランドを立ち上げました。「伝統の変わり塗り」×「デジタル加工技術」というコンセプトで自社技術の強みを発信し、インテリア等の異業種と連携した製品開発等、新規市場開拓を行っています。



漆塗りの吹付け作業工程



ブランドロゴ：「KODAI URUSHI」



精密なグラフィックの表現